



秋田の人々の美を思う心

〔秋田市観光クチコミ大使〕

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 副所長 山 梨 絵美子 氏

今夏、例年よりも厳しい暑さの中、甲子園での金足農業高校の活躍に大いに力をいただきました。追い込まれても前向きに向かっていく粘り強さと瞳の明るさを、秋田出身者として、とても誇らしく思いました。全国的に秋田への注目度が上がったようですが、他にももっと評価されてよいものが秋田にはたくさんあると思っています。自然環境や食の豊かさ、穏やかな気候と人々の心、教育力など、すでに知られていますが、まだ十分に認知されていないもののひとつが、美しいものを味わう心の歴史であると思います。

江戸時代から秋田を治めた佐竹家は鎌倉時代の絵巻の名品『佐竹本三十六家仙絵巻』を所蔵していたほか、阿仁銀山の開発に訪れた平賀源内が秋田藩士小田野直武に教えた西洋画法を藩主自身が学び、日本絵画史に大きな意義を持つ秋田蘭画を描き広めたことで知られています。このほか近世以降の秋田では、銀線細工、黄八丈、樺細工、春慶塗、川連塗など工芸品や、イタヤ楓で編む太平箕など農具に至るまで、自然を活かし生活をいろいろ美しいものをつくる技が磨かれ、引き継がれてきました。その背景に、それらの美しさを味わい、大切に作る心の数百年に及ぶ歴史があるはずで

私は生まれてから上京する1977年まで秋田市で暮らしました。小中学生の頃から歩いて行ける場所に美術館があり、国際的画家である藤田嗣治の作品や秋田蘭画などを日常的に見られる環境にあったことが、現職である東京文化財研究所の仕事につながっていると思います。大学では美術史学を専攻し、帰省のたびに、小学生の頃から親しんでいた平野美術館の藤田による大壁画などの作品を訪れました。館内で、平野政吉館長に呼び止められ、館長室で、藤田との交遊の思い出などをうかがわせていただいたこともありました。大学院卒業

後に職を得たのが、「湖畔」で知られる洋画家黒田清輝の遺言で設立された美術研究所を母体とする東京文化財研究所です。同研究所は、美術工芸を中心とする有形文化財、無形文化財の調査研究、文化財の保存科学や国際的文化財保存協力を行っており、国内外の有形・無形の文化財へと視野が広がるにつれ、秋田の美を味わう心の歴史を改めて思うようになりました。

地方の時代と言われた1980年代に各都道府県立美術館が次々と設立されていますが、秋田市美術館の1958年開館は全国的にも早い例です。また、明治以降、旧大名家、新興実業家による私立美術館も設立されますが、当時あって現代美術を積極的に収集した平野政吉氏は倉敷の大原孫三郎氏と並んで特筆すべき人物であったと思います。

秋田の人は控えめで、自分達の良い面を積極的に伝えていない印象を受けます。奥ゆかしさや控えめな点は、長所とも思うのですが、わかっていたくことも重要です。郷里秋田の、美を味わう心の歴史を広く知っていただけるよう、微力ながら努めて参りたいと思います。

■略歴

秋田市生まれ。東京大学文学部美術史学科、同大学院修了。アメリカ・テキサス大学留学を経て、東京国立文化財研究所入所。著書に『近代日本美術事典』（共著）（講談社 1989年）、『高橋由一と明治前期の洋画』（至文堂「日本の美術」349 1995年）『小林清親と明治の浮世絵』（至文堂「日本の美術」368 1997年）、『没後100年記念東京国立博物館所蔵高野コレクション浅井忠展』図録（東京高島屋ほか 2005年）、『生誕150年 黒田清輝展』（東京国立博物館 2016年）など。